予の伊犂に着するや、其の範圍の廣き、從ふて大小官憲の訪問應答、巡覽視察等頗る頻繁を極めたり。然るに恰も十五日、綏定城外を一周せんと欲し、乘馬一頭を知縣に依頼す。知縣其の選擇に惱むの際、適〻露國の『アクサハル』（村長）某進んで居留露人の駿馬を周旋す。予厚意を謝し、『アクサハル』並に纏頭鄉約二名と同行し、城外に出づるや、予が乘馬數次奔逸せんとす。惟ふに此馬は嘗て競馬に用ひしものか、或は予が服裝の異樣なるに驚きたるものならん。是に於て小心翼戒しつゝ進む。斯くして城北營房附近の高地に到り、熟々城外附近の地形を視察中、忽爾腹條の切斷すると共に、端なく馬驚いて奔跳し予は地上に落ちて、鐵蹄右手の甲を傷く、出血淋漓、鄉約愕然として一方予を扶け、傍ら奔馬を捕ふ。予痛苦を忍び、手早く繃帶を施して、別事なきを表し、一鄉約の勸むるまゝ、馬を換へ視察を遂げて歸り、更に繃帶を除きて熟視すれば、思はざりき創口約寸餘、深さ骨に達せむとは。衆皆驚き、異口同音、彼の『アクサハル』を罵り、或は故意此に至ると爲す。『アクサハル』叩頭謝し且つ陳ず。予曰ふ諸氏請ふ尤むるを止めよ、『アクサハル』固より何等の意あるに非らずと雖も、彼の馬性頗る敏、或は一矢酬ゆる所ありしならんと

視察中の負傷